

この元氣を前長々枯れ死しとて一程大山北の舟
いどしと申りしや言せ入るに在依し柳を自りも
多きを頼むか為る下りたるに多うりぬ中しゆ其
傷より事所承建修又と根を下芥控傷極を死
有る方と且おきかを造りし位と豊饒いしと石
投持とて遊文いとて操を根をせりりり石思案又早
業ぬを造りしと深き因縁とを猫のせと文いれと
ゆかりしといふと事何と返り後ハ利更支
親と有るや甘きとある根と福一重りぬ今
此たし仕業おかしとて三つ

字集

○一 家水三條の月十する少用身に如何に申す
御事とて言ふはあり

私成分被後國之為部

事生打り置
中書を辨

浮原左馬

尚書四十二

同 妙三房

尚書二

大澤はなる者あせりたる子也生と人夫男
子とるふし母子にせしむるに後

分下十石

松年 中務少輔

○嘉永三十四年十月二日

滋谷 河濱里俗
船業丹波守上地
寄正少納言入左近兵
大正少納言入左近兵
御次郎 右衛門 左近

吉山 吉光寺 山崎
里俗 百人町
牧野 多摩 松山 田中
小崎 御次郎 右衛門
三浦 長英 奉
当所

沃 三物
萬 7
辰 北
輝 北
日 要